

東邦大学学術リポジトリ

Toho University Academic Repository

タイトル	編集後記
別タイトル	EDITORIAL POSTSCRIPT
作成者（著者）	東邦大学医学会編集委員会
公開者	東邦大学医学会
発行日	2022.06.01
ISSN	00408670
掲載情報	東邦医学会雑誌. 69(2).
資料種別	その他
著者版フラグ	publisher
メタデータのURL	https://mylibrary.toho u.ac.jp/webopac/TD75867539

編集委員会

編集委員長：中野裕康

編集委員：赤羽悟美

狩野修

内藤篤彦

高橋寛

編集顧問：伊豫田明

弘世貴久 池田隆徳

片桐由起子 近藤元就

南木敏宏 佐藤二美

和田弘太

津熊久幸

(ABC 順)

編集後記

この原稿を書いている今、ロシア軍によるウクライナ侵攻開始から2か月ほど経っているが、いまだ解決の糸口が見えていない。よく耳にするのは、ロシア人の多くがプーチンを支持していることである。その原因として、政府寄りの情報しか伝えられてないというロシアの状況があげられている。情報が一方的なものからしか入って来ない場合、正しい判断ができるだろうか。報道する側も、行政の利になるように事実を歪曲することもあるだろう。意図的な場合だけではなく、ジャーナリストは正確に伝えたいと思っ

ていても、情報の入手先が限られていれば正確な報道はできない。したがっておそらくロシアの一般人にとっては、なんで自分たちが責められるのか、わからないままであろう。

政治の世界はそうだが、一方で「科学は常に正しいか」という点にも疑問がある。誰がやっても同じ結果が出て、同じ結論になるのが科学であるはずが、実際には、研究の発端としての疑問点に対する見方、研究方法の選択、結果の解釈などに差があることで、最終的には大きな差になって、時に論争も起こる。意図的に結果を作り出す捏造ではなく、世の中の情勢や人々の欲求に応えようとして、科学ですら、ゆがめられたものになる。フランケンシュタインの誘惑というNHK-BSの番組では、政治に翻弄される科学や、科学者の誤った信念で繰り返される過ちを扱っているが、それらも、今振り返れば誤っていたと判断できるが、

登場する科学者の多くは、時代の寵児としてもはやされていた人物であることが多い。

このような状況で、科学の中立性を守るための砦の一つが、学術雑誌の論文査読システムである。お互いの研究成果を批判的な目で見、疑問点を投げかける。指摘された側も、独善に陥ることを防ぐことができる。東邦医学雑誌でも毎号多くの投稿があり、査読が行われている。公平で自由な科学への扉は開かれている。世界がどう変わるのか全く先が読めないが、せめて、科学を扱う我々は開かれた世界にいたいものである。

(佐藤二美)

東邦医学会雑誌 第69巻 第2号

令和4年6月1日発行

編集兼
発行人 中野裕康〒143-8540 東京都大田区大森西5丁目21番16号
東邦大学医学部2号館M1階 医学メディアセンター内

東邦大学医学会

(振替口座 00190-6-95793)

tel. 03-3762-4151 ex. 2465/fax. 03-3764-1642

e-mail: igakukai@med.toho-u.ac.jp

http://tms.med.toho-u.ac.jp

東京都北区西ヶ原3-46-10

株式会社 杏林舎